

耐震補強NG参考事例

・ブロック基礎の建物(参考写真①)

→基礎の強度が不足しているため、耐震補強不可。

※増築部分等、一部のみブロック基礎の場合は検討が可能なケースもある。

・木造と鉄骨造、木造とRC造等、平面(同一階)の混構造の建物(参考写真②)

→木造部分とそれ以外の構造の部分では強度が異なるため、地震に対しての揺れ方が違う。

平面上の混構造で、別構造同士の隙間(エキスパンションジョイント)が無い場合は、耐震補強不可。

※1階部分がすべてRC造、鉄骨造等で、2階部分に木造が乗っている場合(立面上の混構造)は検討が可能。

・スキップフロアの建物(参考写真③)

→高さの異なる床が複数存在することになり、複雑な構造計算が必要なため当協会では検討不可。

※要注意 細長い形状の建物(参考写真④)

→NGかどうかは計算しないと分からないが、X方向Y方向のバランスが悪く、さらに短手方向は補強できる壁の部分が少ないため耐震補強不可のケースも多い。もしくは間取りに制限がある可能性が高い。

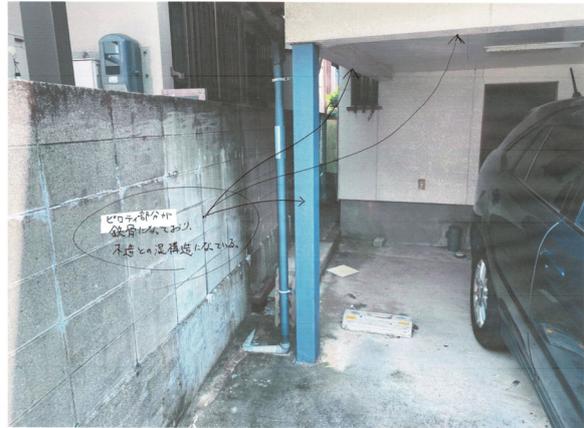
※要注意 大幅な間取り変更を伴うリノベーションの場合

→間取り変更の際に既存の壁を多く撤去する場合は、建物の強度・バランスが悪くなり、耐震性が悪化する可能性が高い。基礎がない部分に壁を追加しても、その壁は耐力を持たない。

参考写真①



参考写真②



参考写真③



参考写真④

